



SESERAGI—MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2016～2017年度 RI会長 ジョンF. ジャーム
RIテーマ 人類に奉仕するロータリー

クラブテーマ「出会いに感謝&ありがとう」会長 中山和雄

副会長 山口辰哉 幹事 米山晴敏

第1319回 例会
2017.4. 21(金)晴

司会:山口辰哉君 指揮:岡 良森君
ロータリーソング「奉仕の理想」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

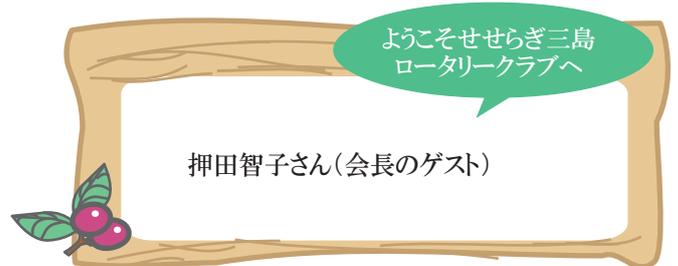
会長 中山和雄君



今晩は。今日は三島プラザホテルで三島西ロータリークラブの45周年記念例会が行われています。私も申し訳ありませんが途中退席をし、参列させていただきます。また先ほどSAA委員長からご紹介がありましたみんなの笑顔おたまちゃん食堂の押田代表においでいただいております。後程卓話でお話を頂きます。

さて今日は仲原実圭さんの紹介をさせていただきます。仲原さんは1965年4月7日伊豆市修善寺町で生を享け、妹二人の3人兄弟で生家は狩野川のほとりでおとり鮎の販売、釣り人相手の民宿を営んでおり、農業も兼業していたため幼少から高校卒業まで田・畑・茶畑、の手伝、小学生の時には何故か新聞配達、そして祖父の趣味としか思えない菩提寺の整備作業、おとり鮎のヤナ漁等々の手伝いを良くしていた記憶があるそうです。中学生の頃はバレー部に入学していたが祖父に百姓や菩提寺の作業に借り出されなかなか解放されなく、高校は日大三島に入り勉強は嫌いでなかったのが比較的成績もよく、3年生になり進路を決めるに日大の医学部にと思ったが父親に学費的に遠慮しろと言われ理工学部土木工学科へ進学しました。大学進学と同時に祖父から解放され、お陰様で遊びに夢中になり2年生終了時では取得単位数が規定の半分以下しかなく、早々に担任より4年間での卒業は無理だと太鼓判を押されたそうです。よく話を聞くとこの学部は4年間で卒業している比率は36パーセントと聞かされ、このままでは親父に半殺しにされると思い、遊びを止め卒業に向けて勉強に取り組み、なんとかギリギリに4年間で卒業出来、卒業後は中堅のゼネコンに就職し、横浜の港北ニュータウンの造成工事やベープリッチ・横浜地下鉄建設工事等をへて千葉・茨城・新潟の造成工事を転々と移動して歩いたそうです。当時地方バブルの影響で受注が多く現場管理者の数が足りなく、25歳の時には西伊豆の堂ヶ島洋ランセンターに配属され20億の現場で所長と自分の2名体制で配置され毎日200数名からの作業員を指示する時期もあり、そんな中27歳で結婚。さあこれからと言う時に1996年バブルが

弾けた後遺症で5900億円もの負債を背負い会社更生法で当時日本一の大型倒産をし、その時妹からはお兄ちゃんの会社って大きかったんだねと他人事のように感嘆されたのがつい先日のようにも思えるが、その後7年間更生会社に残っていたがかなり悲惨な7年間だったそうです。その後御殿場の岳南建設に転職し41歳の時に(株)フィールズを設立し現在に至り不動産の建売企画等を行ない、農繁期には田んぼそしてお茶摘み等々も頑張っているとの事です。せせらぎ三島ロータリークラブには中山現会長に誘われ、例会会場に食事におじゃまし会員名簿を拝見した所、魅力的な大先輩の集りで、またロータリークラブにも興味を持ち是非仲間に入れてもらいたいと決断したそうです。「お陰様で新しい方々との出会いもあり、いろいろ公私とも影響を受け感謝しています。そしてまだまだお役に立てるような知識や行動力もない現在ですが、これからもよろしく願いいたします。」との事でした。



出席報告

	出席総数	出席率	マークアップ	修正出席率
前々回	33/38	86.84%	35/38	92.11%
今回	28/36	77.78%	会員総数	39名

欠席者 あなたが見えなくて残念でした。

石井(邦)君、勝又君、杉山(順)君、鈴木(政)君、田中君、仲原君、中本君、米山君
(*出席免除会員の欠席者 兼子君、澤田君、渡邊君)

おめでとう

会員誕生日 4月10日 杉山順一君
4月16日 小林 勝君

設立の趣旨

親だけで子どもを育てる責務を負う中で生じる孤立や疲弊も、地域の人とつながりながら子育てを行うという仕組みや場をつくることにより、心理的な負担が和らぎ、子どもの状態が改善するケースがあります。

困窮家庭やひとり親家庭に安く・おいしく・楽しく食事ができる機会を届けることはもちろん、共働き家庭で孤食になりがちなお子様や家庭に居づらさを感じている子どもなど、必要としている人が気軽に訪れることができる場を作ること、更なる孤立化や事態の深刻化の予防、地域の中で居場所作りに寄与できると考え、「みんなのえがお おたまちゃん食堂」の設立を検討するに至りました。

対象者を限定せずに集える場とすることで子どもが親以外に頼れる大人と出会える場、多様な価値観に触れる事ができる場になるなど大人を通して社会とつながる場にもなる可能性もあるのではないかと思います。

今の時代の食生活の乱れを少しでも改善できる場として、「みんなのえがお おたまちゃん食堂」を設立します。

みんなのみしまこども食堂

目的

共働きの世帯が増え、子どもだけで夕飯を食べる機会も昔に比べ増加していると感じています。孤食という社会問題に対して、みんなで楽しく食べる「子ども食堂」を開設することで孤食の解消と、家事と育児に追われるママの憩いの場を提供し、子育てしやすい環境を整える。

子ども食堂開設に向けて

フェイスブックページを作成し、寄付や食材の提供、お手伝いしてくれる方を募集。

家庭菜園の野菜など、寄付をたくさんいただきました。

子ども食堂ネットワークに加盟&チラシ配布

メンバーで手分けして近隣の保育園や学校など様々なところにチラシを配布しました。

子ども食堂開設

カフェ&スペースほとりにて

「みんなのみしまこども食堂」が誕生。当日はテレビや新聞など多くの取材を受けましたが、何よりも溢れるばかりの子ども達が来てくれました。

うれしい声と悲しい現実

- 多くの子どもたちが参加してくれた
- ママからもほっとできる、家事を休めて気分転換ができた
- 心無いメールがくる
- 子ども食堂＝貧困対策と思われ、こんな事やっても意味がないなど、一方的な思い込み
- 法的な位置づけがあいまい

今後の展開

名前を「みんなの笑顔 おたまちゃん食堂」に変更

飲食店をお借りして、定例的に実施

第1水曜日 結びやキッチン(三島市中央町)

第3月曜日 マリオパスタ(三島市南本町)

* 上記以外にも開催予定

PHOTO GALLERY



スマイルボックス

大庭靖貴君:先週、誕生日のコメントで42才と言いましたが、43才でした。ビックリしました。

篠木喜世君:新学期が始まりました。スマイルします。

Dテーブル:先日のDテーブル会での残金をスマイルします。

今日の料理

